

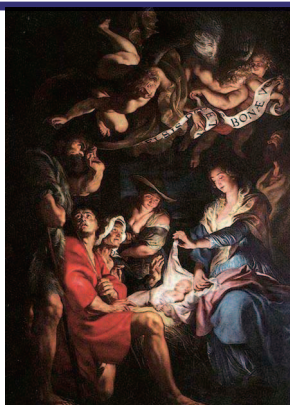


広報 なかわだ

第 384号

12 月の予定

堅信ミサ	12 月	4 日 (日)
教会委員会	12 月	10 日 (土)
共同告解 (赦しの秘跡)	12 月 11・18 日	(日)
信徒の会 例会	12 月	18 日 (日)
主の降誕ミサ	12 月 24・25 日	(土日)



The Adoration of the Shepherds (Peter Paul Rubens 1608)

20 11年 12月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1
Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成 23 年 12 月 4 日

今年 1 年間、ありがとうございました



主任司祭 小林 陽一

梅村司教様は、小教区のなかに「祈る力を育てる部門」「信仰を伝える力を育てる部門」「神の愛を証しする部門」(以上は、三部門と呼ばれる)を立ち上げるようにとの御意向を表明されました。その御意向に従って中和田教会は2010年以来、祈る力を育てる部門を受け持つ典礼部、信仰を伝える力を育てる部門を受け持つ宣教部、神の愛を証しする力を育てる部門を受け持つ福祉部は、そのための活動を着々と進めてこられました。

典礼部は「司祭不在の主日の集会祭儀」や「司祭不在の時の通夜式」について実施できるよう準備いたしました。

宣教部では、教会の中高生に呼びかけての中高生会が活動する事になりました。

福祉部は、外国に寄付する毛布の提供の呼びかけ、関内駅附近のホームレスの方々にカレーライスを提供しておられる戸塚教会の神父様に御寄附のお米を提供すること、インドのマザーテレサの修道院にパッチワーク状に縫い合わせて送りたいので、ご自宅にある新品でない木綿の布地をご寄附ねがいますという呼びかけと、布地の発送を実施しておられました。

感謝申し上げます。これらの活動は信仰や霊性そして共同体を育てる為に、グループの中で話し合いを欠かさない事を念頭においていただきたいと思います。

皆様もう気づいておられると思いますが、こんな発表がありました。3月11日の東日本大震災の後、夏の要理学校の集まりで、生徒や中高生数人が被災者の方々に寄せる祈りを模造紙に書き込んで、それを中和田教会の聖堂入口近くに貼りました。そのグループ全員で祈る力を寄せ合い、発表いたしました。この祈りは、被災者の皆様に、きっと、届くと思います。

毎週土曜日の午前9時30分頃から、教会内のお掃除を4人～6人の信者さんが交替でやって下さっています。教会のお掃除の奉仕は貴い大事な奉仕です。教会のお掃除の奉仕をなさる事は、カトリック教会を造った神さまの愛を証している事だと思えます。

今年一年間ありがとうございました。皆様、どうぞ良いお年をお迎え下さい。



日	曜		ミサ・勉強会	備考
2	金	初金	初金ミサ(10時)	掃除
3	土	聖フランシスコ・ザビエル	主日ミサ(18時)	
4	日	待降節第2主日	主日ミサ(9時)	堅信式
8	木	無原罪の聖マリア	祭日ミサ(10時)	
10	土		主日ミサ(18時)	教会委員会(9:00)、掃除
11	日	待降節第3主日	主日ミサ(9時)	ミサ後共同告解(大人)
17	土			掃除
18	日	待降節第4主日	主日ミサ(9時) 初聖体祝福	ミサ後共同告解(子ども&大人)
24	土	主の降誕祭	徹夜ミサ(19時)	
25	日	主の降誕祭	日中ミサ(9時)	
30	金	聖家族の祝日	祝日ミサ(10時)	

七五三祝福（11/13）、そして洗礼・初聖体ミサ（11/20）

《註》 個人情報保護のため、お子様方のお名前は掲載しておりません

■ 11月13日 七五三祝福ミサ

本年は6名の子どもたちが小林神父様から七五三の祝福を頂きました。

子どもたちが健やかに育ちますように！



■ 11月20日 洗礼・初聖体ミサ

参列者が暖かく見守るなか、2名の要理学校生徒が秘跡に与りました。

（1名が洗礼と初聖体、1名が初聖体）

終了後は祝賀会も開催されて、みんなでお祝いをして喜びを分かち合いました。
おめでとうございます。



＜準備して下さった要理学校の皆さん＞



なかわだの
声



ブラジルでハンセン氏病の方や貧しい子供たちや青年たちのお世話をしておられる横浜教区司祭の佐々木治夫神父様から、プロポリス購入を通して支援させて頂いている中和田教会の有志の方々宛に手紙が届きました。

厳しい社会状況や自然環境の中で大変な思いをしてお奉仕されているにもかかわらず、神父様は、日本の3月11日以降の自然災害に心を痛めておられ、お見舞いの心を届けて下さいました。

その中で、放射能問題にも触れられて、プロテスタントの方々からは反原発運動のニュースがたくさん入ってくるのに、カトリックの側からのニュースがないことを淋しいとおっしゃっておられます。体を張って異国の地で働いておられる神父様は、厳しい現実の中では、祈りだけでは足りない何か、すなわち困難に直接向き合う勇気とか真摯さを私たちに求めておられるように感じさせられています。（I）

バザーを振り返って

10月30日に開催された中和田バザーは、既に広報なかわだ11月号でご報告したとおり、成功裏に終わることが出来ました。

とくに、

- ・売上高、収益ともに昨年度を上回ることが出来たこと、
- ・準備段階から教会外の方々のご協力が得られたことや、いろいろな年齢層の方々との闊達な交流が出来たこと、
- ・フリーマーケット等の新しい試みが成功したこと、

などの成果を生み出すことが出来たことは、ご参画頂いた皆様の多大なご奉仕とご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

本年度の、収益面での結果概略は次の通りです：

●収入（売上＋ご寄付）	554,545 円
●支出（材料＋賞品代）	146,885 円
●差引収支（収益）	407,660 円

上記の収益は、（東日本大震災義援を含む）福祉支援財源、ならびに教会建物補修費に充ててもらうよう献金することと致します。有難うございました。

他方、今年のバザーでは、以下のような基本的な課題も顕在化して来ました。

- ・全体として、（準備段階と当日対応の両方で）要員不足、
- ・参画メンバーの高齢化が進んで来ており、バザー当日の対応や準備作業の負荷が過大になっている、
（注：会場設営をとって見ても、高齢者主体の作業となっており、またいろいろな機材が老朽化且つ不足していて、怪我の恐れすらある。今に始まったことではないが、もう限界）
- ・バザー参画への呼びかけがもっと必要であり、また指揮系統や企画・運営体制も見直しが望ましい、

今回のバザー運営を通して実感されたこととして、来年度以降も（今までの延長線上で）バザーを開催することは困難な可能性もあり、この点に関し再度皆さんで率直なご意見を出し合う必要があると感じられます。

今後、あらゆる選択肢を入れて、（例えば、「バザー実施自体を止めること」、「全ての売り場を“フリーマーケット化”すること」、なども入れて）中和田全体で今後の方針に関わる意思決定していくことが必要あり、全ての前提条件や今までの経緯を取り払って、

『何のためにバザーをやるのか？』

『やるならば、どのようなやり方で実施するのか？』

という根本に立ち戻って考え直すことが必要です。

これから、いろいろな場を通して、この議論を深めていくこととなりますが、このことは決して担当の信徒に対応を任せればよいことではなく、中和田共同体の全ての信徒で議論して意思統一を図ることが必要です。

信徒各位のご参画とご協力を宜しくお願い申し上げます。（バザー委員会）



岩淵委員長の コラム



■ 東日本大震災の義援金の件はこの欄でも何度かご報告して参りました。5月に仙台教区とカリタスに送ってからも募金活動を継続して参りましたが、このほど仙台教区に118,944円を第二回目としてお送りしました。皆様の御協力にお礼申し上げます。復興への道りは遠く険しいものがあります。これからも被災地の方々との連帯の気持ちを忘れないようにして行きたいと思ひます。宜しくお願い致します。

■ 聖堂のリニューアルに御尽力下さった大川様から、またプレゼントを頂きました。聖堂全体の木の雰囲気 matches するようにと、11月5日に新しい木製の聖櫃を下さいました。早速これまでの鉄製の聖櫃に換え設置しましたので、お気づきのことと思ひます。また椅子のシート面の補強工事もして頂きました。大川様には心よりお礼申し上げます。

■ 祈る、伝える、証しする力を養成するための仕組みを作り、強化して欲しいという司教様のご要請に対し、中和田教会では既存の組織である典礼、宣教、福祉の各グループがその任に当たることとして活動して参りました。各グループとも日頃様々な活動をして頂き感謝しております。この三つの力の養成は、個々人の養成と組織としての力の発揮の両面で考えていく必要があります。個々人の養成については、祈る、伝える、証しするのどれか一つのみの力が付くだけでは不足で、全体として丸く伸ばしていくことが大事です。また三つの力は必ずしも独立しているわけではなく、互いに深い関係があると思ひます。その意味で、ある一つのグループの活動に精通すると共に、他のグループの活動にも興味を持ち、グループ間で連携していくことが本来の姿であると思ひます。できれば時には他のグループに移って色々な経験をして頂くことも重要なのではないかと考えています。委員の改選時期を迎えつつありますが、皆様の御配慮をお願い申し上げます。

組織としての力の養成については、これまでの活動に満足するのみならず、新しい方向を考えて行くことが必要と思ひます。その契機として、他の教会ではどのような活動をしているかを知ることでも大変参考になると思ひます。今後、信徒の会の例会で、他教会の活動事例をご紹介したいと思ひています。皆様、是非信徒の会の例会（第三日曜日）にお気軽に御参加下さい。

委員会だより

(文中敬省略)

△11月12日(土) 9名出席▽

各グループからの報告

●典礼(下村、大宮)

・今年の降誕祭12月25日は日曜で、主日ミサと重なるので、ミサは9時開始とする。
・典礼Gは従来の6つの小Gで運営してきたが、比較的時間に余裕のある年配者を中心に葬儀小Gを新設する。

・典礼委員の交代時期であり、来月以降候補者と話し合っていく。

・平成24年度の典礼G検討事項として、「集会祭儀」要領の中和田教会版を検討・作成することとする。

●財務(委員欠席) 報告無し

●宣教(石井(悠) 別紙に基いて報告
・2015年の湖南キリスト教セミナーは5月19日(土)または26日(土)に藤沢教会で開催する。講演者候補を絞り込んできており、これから交渉する。

・教区リーダー研修会が平塚教会で11月3日に開催され、中和田から3名が参加。
・12月4日の堅信式で、受堅者への記念品は宣教Gで準備

・泉区民クリスマススのニュースレター(2015)に、「中和田教会のクリスマス」が掲載されている。読んでほしい。

●要理(保科)

・11月20日洗礼&初聖体ミサのリハーサル並びに諸準備は13日に行なう。
・今年は12月4日に堅信式があるので、聖劇の準備が困難であり、「歌」に変える。開始時間は、ミサに先立って午後6時半とする

《提案》

・初聖体は、現在「王たるキリスト」の主日に行なっているが、この秋の時期は地域・学校などで行事が多く、困っている。初聖体を復活祭の時期に動かせないのか? 復活祭の祝賀会で、初聖体も一緒に祝いするようにしたい。

↓結論として、来年度はこの主旨で試行する。但し、洗礼式と初聖体が重なること、初聖体が霞んでしまわないように留意要

●建物を考える会(下村)

・聖櫃を、新しく木製の聖櫃に変えた。(元々、聖堂改修は木目を基調としたデザインに統一するコンセプトであった。新しい聖櫃は、大川さんのプレゼント)
・加えて、祭壇脇のマリア像の設置台を新たにづくってもらっている。

●営繕(委員欠席) 報告無し

●福祉(中島 福祉G11月例会の報告
・バザー残品は福祉グループに頂きたい
・バザー収益で、福祉グループへの配分を例年通りお願いする
・パッチワークは、皆さんの協力でかなり集まった ↓茅ヶ崎教会に送った

●行事(武田(幸))

・バザーは、皆さんのご協力とご奉仕で無事終了。フリマなど新しい試みも行なえたこと、および収益も昨年より多く、まずまずの成果であった。
・(反省事項は本号三頁参照)
・12月4日の堅信式祝賀会に関して、担当のA地区が11月6日に打ち合わせ、分担などを決めた

《聖堂の使用に関する議論》

・中和田の聖堂改修内容が、全国教区典礼担当者会議で紹介されたこと、梅村司教様が日本カトリック典礼委員会の責任者であること、故小谷氏より聖堂の使い方に関して課題提起が以前あったこと、等々から、「聖堂は聖なる空間」であることを再認識して、従来当たり前のようを実施されてきた聖堂をパーティ会場として使うとか、バザー時にはホールのように使うことについては「慎重に考慮する」ようにしたい。(小林神父)
・中和田教会建物建設(1973年)時点で廻ると、『設計コンセプト』は明らかに「聖堂を多目的ホールとしても活用する」ことを前提としており、建物構造もそのように

なっている。大元の設計コンセプトからして、いきなり多目的に使えないようにするというのは無理があるのではないのか? 何の行事も出来なくなる。(小野)

・この件は、長い歴史・経緯があって、課題にあがる都度、いろいろ検討して来た話である。それらの歴史・経緯を踏まえた上での検討・方針決めであるべき。(下村)

・直近の12月4日堅信祝賀会は、聖堂で行なうこととする。(岩淵委員長提案↓小林神父承認)

●総務(小山(恭))

・聖堂の掃除で、椅子(会衆席)が痛まないように、あまり動かさないでやる方がよい、というご意見がある。
↓本件は営繕と総務で検討願う

●広報(小野)

・各Gからの活動報告を頂きたい。広報は、ミサに与れない信徒も目を通す連絡・通信媒体であり、各Gから少なくとも半年に一度は投稿願いたい

●信徒の会(小野 10月例会の報告)

・これから、『交わりとしての教会』に向けて、分ち合いを通して理解を深めていくが、今回はその導入編として、岩淵委員長に共同宣教司牧委員会におけるお話し合いの流れを説明頂いた。
・(中和田教会の)雰囲気についての意見など(広報11月号参照)。
・10月23日サロンは、運営主体が「信徒の会」に移った最初であったが、皆さんのご奉仕で無事開催出来た。但し、PR不足で参加者少なく反省

■討議事項(前掲の項目を除く)

●来年度予算 財務委員欠席のため来月に討議(但し、教区への予算書提出期限は11月末日)

●財務の課題(収支バランス 岩淵委員長)

・中和田教会の支出は、その7〜8割は固定的な支出であり、節約対象となる残り2〜3割を半分にしても支出削減は10〜15%程度に留まる。
・高齢化に伴って、長期的に収入は減少傾向

にあるが、要は収入を増やすしか小教区として存続していく道がない。どうするか? 《本件に関する議論》

《本件に関する議論》

・ミサ後のお知らせや臨時信徒大会などを通して、危機的状況を訴えていく
・ミサに与っている方々は、既に問題意識を強く持っている。それを越えた呼びかけの仕組みが必要

・外国籍信徒の方々にも教会委員会に入ってもらって、解決に向けて協力して頂く
・月定献金から光熱費を切り離して、光熱費のみの袋を作ってはどうか
・最近の傾向として、主日ミサの参列者は増えてきているように感じられる

●バザーの反省

・本号三頁に掲載されている『バザーを振り返って』を参照下さい

●東日本大震災義援金

・バザー収益からも所定額を合算して、早急に仙台司教区に送る

●来年度の体制(岩淵委員長)

・各委員は、委員交代、各Gの体制強化に注力願いたい(次回委員会まで)

■小林神父のお話(前掲の項目を除く)

●2015年度予算策定にあたり、各Gから財務委員に至急予算申請を願いたい
●横浜天主堂献堂一五〇周年記念ミサ(11月23日)への参加要請

●堅信ミサでは、既に堅信を受けた信徒の奉仕をお願いする(堅信協力者)

●その他

●各グループの一年間の活動総括、来年度の方針と抱負を一月の委員会報告のこと(岩淵委員長)

以上



(次回は12月10日(土) 9時より)